

テンパス

2011年（平成23年）45号



寺田家住宅全景（写真撮影：立花正治）

も く じ

貝塚市の新しい登録文化財 寺田家住宅

孝恩寺の仏像 - 如来② 薬師如来 -

古文書をひも解く
「北前船（きたまえぶね）と貝塚」

古文書講座

平成23年度貝塚市歴史展示館企画展のお知らせ
「貝塚市の70年」展

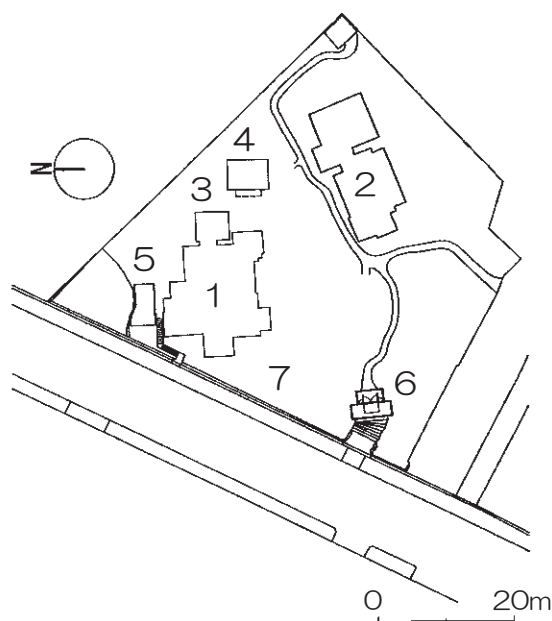
※上の写真は特定非営利法人 摂河泉地域
文化研究所から提供いただいています。

寺田家住宅

貝塚市新町にある寺田家住宅主屋ほか計7棟が、平成23年3月18日におこなわれた国の文化審議会において、「国の歴史的景観に寄与しているもの」および「造形の規範となっているもの」として、登録有形文化財（建造物）に登録するよう文部科学大臣に答申されました。

寺田家は、岸和田を中心として築かれた寺田財閥の一族である楠治が大正初年に分家した家で、「寺楠」の屋号で呼ばれました。楠治は、分家にともない現在の屋敷地に近い麻生郷村海塚の地で鉄工所を営み、大正15（1926）年の資料には「寺田金属工場／鑄造業／従業職工数9名」と記されています。

現在地に屋敷地を求めたのは昭和9（1934）年頃で、新宅をのぞく建造物は昭和11（1936）年に建築されました。当初の敷地は、昭和14（1939）年から同18（1943）



（写真撮影：絞野達也）

年の国道26号線（現在の府道204号堺阪南線）の敷設によって分断され現状の屋敷地規模となりました。当時の屋敷地周辺には工場のほか、従業員が住む社宅や集会所がありました。

寺田財閥関連の建物は、岸和田市南町にある本家寺田家住宅、同市岸城町にある自泉会館、元睦会館、五風荘等がありますが、当家住宅は、貝塚市津田南町の寺田紡績株式会社工場とともに、市内に残る寺田財閥関連の遺構として位置づけられるものです。

（1）主屋 1棟 昭和11（1936）年

主屋は敷地の北側に位置し、木造二階建、屋根は切妻・寄棟・入母屋の複合形式、洋風のスパニッシュ様式の銅板腰葺で、外壁は漆喰壁です。1階は玄関まわりのポーチ・玄関・ホールを経て、応接部、座敷部、居室部の3つの部分から成り、2階は中廊下を介して居室4室で構成されています。ポーチから応接部は外観をスパニッシュ様式とし、開口部には円形やアーチ形のステンドグラス窓などが設けられています。座敷部は応接部とは対照的に和風意匠が用いられ、茶室が設けられています。また、2階座敷には花頭窓（かとうまど）という寺院建築の意匠が用いられています。このように、主屋は多彩な様式を一つにまとめた建造物となっています。

(2) 新宅 1棟 昭和33(1958)年

新宅は敷地の南東に位置し、地元の定兼工務店によって施工された建造物で、昭和33(1958)年の建築です。貝塚市内で最も古い鉄筋コンクリート造で、平屋・一部二階建、屋根は陸屋根(一部棧瓦葺の勾配屋根)で、外壁はモルタル塗です。内部は、東半分が客室部、西半分が居室部と明確に分かれており、外観とは対照的に和風意匠を巧みに採り込んだ構造となっています。



(3) 内蔵 1棟 昭和11(1936)年

内蔵は主屋の東部に接続して建ち、木造二階建土蔵造、屋根は切妻造、本瓦葺とし、内部真壁は漆喰塗、外壁はサイディング(板状の外壁材を張る様式)で、腰部は石張りです。1階入り口は二重構造で、1階背(東)面、2階南・北にそれぞれ窓が設けられています。

(4) 外蔵 1棟 昭和11(1936)年

外蔵は敷地の東中ほどに位置し、木造二階建土蔵造、屋根は切妻造、本瓦葺で、国道26号線の敷設により移築された建造物です。当初の建築年代は、1階入口の庇を支える持ち送り部分の彫刻の意匠により、幕末から明治の建築と考えられています。外部は、足元が石張、腰部が立板壁、上部が銅板壁で、軒部には漆喰蛇腹を廻らせています。1階入り口は三重構造で、内部は床板敷、真壁造漆喰塗で、1階東面と2階南・北にそれぞれ窓が設けられています。



(5) 納屋 1棟 昭和11(1936)年

納屋は敷地の北側に位置し、木造二階建、屋根は寄棟瓦葺で、外壁はサイディングです。主屋よりも低い位置に建てられていることから、上の階が主屋の内玄関に通じる1階、下の階が地下1階となっています。1階には男衆部屋が設けられており、かつては使用人の住居として使用されていました。

(6) 本門 1棟 昭和11(1936)年

本門は敷地西南の隅に位置し、府道堺阪南線204号線に面して、石段を登りきった位置に建っています。木造の薬医門(やくいもん)形式で、屋根は切妻棧瓦葺(一部銅板葺)とします。中央の扉の両脇には潜り戸と竹造りの袖壁が設けられています。建物全体は数寄屋(すきや)風の意匠を基調としていますが、屋根は神社建築の住吉造、軒裏は茅葺屋根を思わせる様式となっています。



(7) 石垣塀 1棟 昭和11(1936)年

石垣塀は敷地西側の府道堺阪南線204号線に面する部分に建っています。長方形の花崗岩によるこぶだし仕上げで、若干反りをつけて垂直に近い角度で積み上げ、頂部には見切石を置いています。北の納屋部分から敷地南西まで重厚で高い塀が連続する構造で、途中に勝手口と本門がアクセント的に配置され、良好な景観を造り出しています。

構造及び形式と建築年代

- (1) 主屋:木造二階建、切妻・寄棟・入母屋の複合形式屋根、スパニッシュ棧瓦、銅板腰葺、昭和11(1936)年建設
- (2) 新宅:鉄筋コンクリート平屋・一部二階建、陸屋根、一部棧瓦葺、昭和33(1958)年建設
- (3) 内蔵:木造二階建、切妻造、本瓦葺、昭和11(1936)年建設
- (4) 外蔵:木造二階建、切妻造、本瓦葺、昭和11(1936)年建設(当初は幕末から明治の建設)
- (5) 納屋:木造二階建、寄棟造瓦葺、昭和11(1936)年建設
- (6) 本門:木造、薬医門形式、切妻棧瓦葺、両袖片開き扉付、昭和11(1936)年建設
- (7) 石垣塀:切り石積、総延長55.7m、昭和11(1936)年建設

登録文化財とは

平成8年10月、文化財保護法の改訂に伴って制定されました。

指定文化財では、修理等に対する補助金等支援措置があるものの、平常の利用、管理については細かな規制があります。民家ではこれら規制が居住者に負担となるため、負担を軽減するために制定された制度です。登録文化財は、国、地方自治体指定物件以外を対象とし、その文化財としての価値にかんがみ、保存及び活用のための措置が特に必要とされるもので、現在登録件数は8000件以上あります。土木構造物等を含め幅広く登録し、緩やかな保護措置を講ずることで所有者の自主的な保護に期待する制度です。

孝恩寺の仏像 - 如来② 薬師如来 -

貝塚市木積(こつみ)の孝恩寺には、平安時代の制作で地方色豊かな19 軀(く)の仏像が安置されており、うち18 軀が重要文化財に指定されています。今回は、如来像のうち薬師如来像を紹介します。如来は修業によって悟りの境地に達して仏となったもののことで、頭部が隆起した「肉髻」(につけい)や額の巻き毛「白毫」(びやくごう)など32の身体的特徴を持っています。もともと如来は、仏教の開祖である釈迦如来のみでしたが、仏教が広まっていくなかで阿弥陀如来や薬師如来などの複数の如来が生み出されました。

【重要文化財】木造 薬師如来立像 1 軀

時 代 平安時代後期
像 高 158.4cm

指定年月日 1913(大正2)年4月14日

薬師如来は、この世のあらゆる病苦を取りのぞく現世利益(げんぜりやく)をもたらす仏として、日本でも古くから各地で信仰されてきました。

本像は、衲衣(のうえ)という一枚衣を偏袒右肩(へんたんうげん)に着し、下半身には裳(も)をつけ、右手は施無畏印(せむいいん)とよばれる印をむすび、左手に薬壺(やっこ)を持って直立した姿をしています。

製作技法は一木造で、頭頂から足ホヅまで、両袖口までを含んで、カヤの一材で彫り出し、両手首先のみを別材としています。内部には内割り(うちぐり)はほどこさず、全身には黄土(おうど)を塗ることで彫刻材として良質とされる白檀(びやくだん)を模しています。

はれあがったような肉髻(につけい)部や大きく刻み出された面部の誇張的な表現は、本像独特の神秘感を醸(かも)し出しています。また、正面からは観察しにくい部分ではありますが、右腕にかかる衲衣が大きく破れたように表現されており、全国的にも大変珍しい作例とされています。様式的にみて平安時代9世紀の制作と考えられる仏像彫刻です。



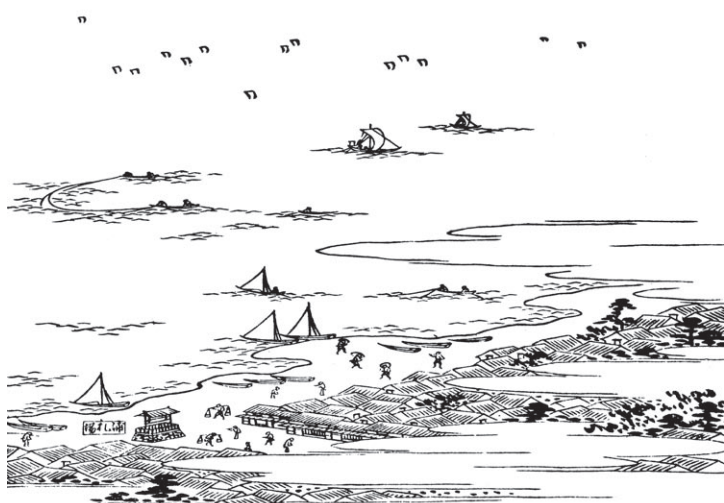
<用語解説>

- ・偏袒右肩：右肩をあらわにする着衣の形。
- ・内割り：乾燥による干割れを防ぎ、重量を軽くするために内部を割りぬくこと。

古文書をひも解く

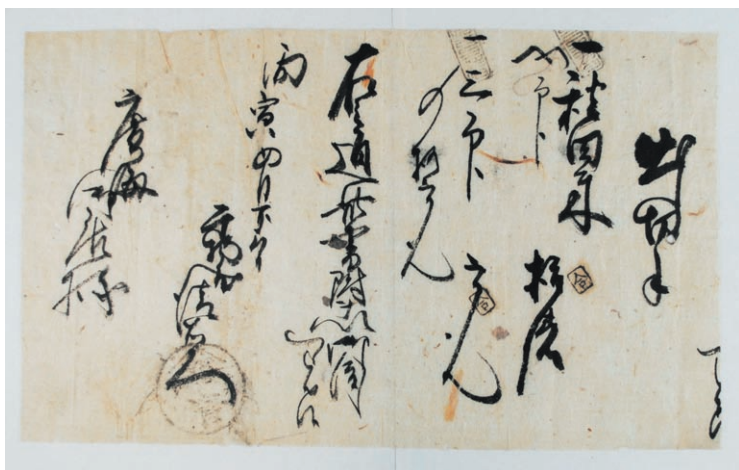
◆北前船（きたまえぶね）と貝塚

江戸時代の海上輸送は、一般に大坂を起点として、瀬戸内海から日本海へ向けて進む西廻り航路と、太平洋側を進む東廻り航路とがありました。そのうち、瀬戸内海を通過して、近畿地方と日本海沿岸の北陸・東北・北海道方面とを結ぶものを「北前船」と呼んでいました。貝塚寺内町の商家、廣海家は天保6（1835）年に開業し、北前船によって仕入れた米や肥料を、ひろく泉州地域に販売しました。創業当初は主に越後の糸魚川（いといがわ）・鬼舞（きぶ）（ともに現在の新潟県糸魚川市）・直江津今町（同上越市）などから越後産の米を、陸奥（むつ）の野辺地（のへじ）（現在の青森県上北郡野辺地町）などから松前産（江戸時代の北海道産商品の呼び名）の魚肥を購入しました。幕末には米や肥料の高騰を契機に経営を拡大させ、文久3（1863）年には大型和船を所有し、自ら日本海へ船を繰り出しました。

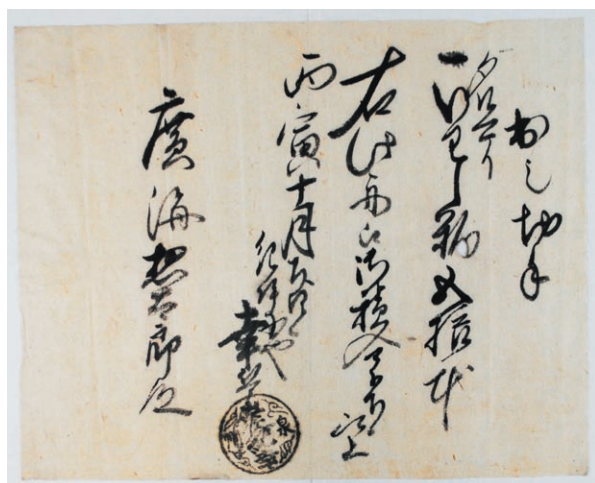


寛政8（1796）年刊『和泉名所図会』に描かれた貝塚浦

最初に紹介する史料は、ちょうど幕末の頃、米や肥料などを泉州地域で販売する際に出される引き換え証で「出し切手」と呼ばれているものです。【写真1】は、秋田米16俵の引き換えを求める出し切手で、丙寅＝慶応2（1866）年4月23日付けで、岸和田の商人干物屋清右衛門から廣海御店に宛てて出されたものです。よく見ると、「入り山」印や三印という区分けがあり、米俵にはそれぞれ印が押されている銘柄米であることがわかります。現在の品種や産地などで価格の差があり、全国各地に取引相場が形成されていました。とりわけ大坂堂島の米市場は、全国の米が集められることから、大きな目安となっていました。【写真2】は、一般に干鰯（ほしか）と呼んでいる「いわし粕」50本を船に積み込んでほしいという内容の出し切手で、同じく丙寅＝慶応2年10月24日付けで、岸和田の商人紀伊国屋（きのくにや）幸兵衛から廣海惣太郎殿に宛てて出されたものです。右肩の「タルマイ」の文字は、漁場として全国的にも有名であった北海道の樽前浜（現在の苫小牧市樽前）のことを指しています。



【写真1】出し切手（秋田米）



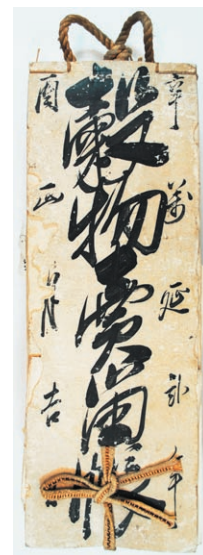
【写真2】出し切手（いわし粕）

このように、遠く秋田・北海道をはじめ東北・北陸などの産物が貝塚まで届けられる、船による物流のしくみが江戸時代に形成されていたのです。そして、貝塚から岸和田をはじめ佐野などの商人、あるいは直接村々に届けられるように発達していきました。これらの動向は多くの帳簿を分析することにより明らかになります。干鰯・穀物それぞれに対して仕切帳（しきりちょう）と売留帳（うりとめちょう）が作成され、商品の数量・価格がこと細かに書き上げられています。二種類の帳簿は大きく性格が異なります。まず、仕切帳は荷主（船）への代金支払いの「仕切」を取りまとめた帳簿で、仕切日、荷主の名前、商品の種類と数量・重さ、価格が記されています。これに対して、売留帳は廣海家からの販売先ごとに、販売日、販売額、入金日、入金額が記されています。この二つの帳簿を照らし合わせると、仕入れから売り上げまでが確認できるものです。

5月25日から6月29日まで5回にわたって開催する古文書講座では、当時の時代背景などを取り上げながら、貝塚の米穀肥料商廣海家の商業活動を明らかにしていきます。



穀物・干鰯仕切帳



穀物売留帳



干鰯売留帳

古文書講座

◆「ト半齋了珍と願泉寺」

平成23年1月15日（土）から5回にわたり、「ト半齋了珍と願泉寺」と題して古文書講座を開催しました。

願泉寺本堂ほかの半解体修理事業が終了するのにあわせて、初代ト半齋了珍と貝塚御坊願泉寺にまつわる古文書を取り上げ、願泉寺の成り立ちを明らかにしました。テキストとして、根来寺で学んだ了珍が、羽柴秀吉が紀州を攻める以前に、根来寺と内通していたと思われる手紙のほか、秀吉から貝塚寺内を戦いに巻き込まない約束を記した禁制（きんぜい）、了珍の辞世の句などを取り上げました。また、三代了忍の頃にまとめられたト半家の由緒書を読み進め、秀吉や徳川家康との政治的結びつきを明らかにしていきます。



講座の参加者からは、「ト半家初代～3代にわたる人材が時勢を見きわめ、寺運の興隆に果たした貢献度が良く理解できました。」「願泉寺の落成に合ったテーマで興味が引かれ、政治的な要素を扱っていただき楽しく学びました。」といった感想をいただきました。

平成23年度貝塚市歴史展示館企画展のお知らせ

「貝塚市の70年」展

貝塚市教育委員会では、平成21年度から『貝塚市の70年』の編纂事業を進めています。

本展では、さまざまな資料や写真、建築模型などの展示資料をもとに、貝塚市の70年の歴史と編纂事業における調査成果について幅広い分野から紹介しています。

【展示内容】

- ①貝塚市の誕生
 - ②戦後の復興
 - ③高度経済成長から二色の浜環境整備まで
 - ④貝塚市の産業
 - ⑤貝塚市の公共建築
 - ⑥「貝塚市の70年編纂事業」について
- ※映像コーナーも設置しています。



会期：平成23年4月16日（土）～

会場：ふるさと知っとこ！館（貝塚市歴史展示館）

大阪府貝塚市半田138-1（貝塚市民庭園内）

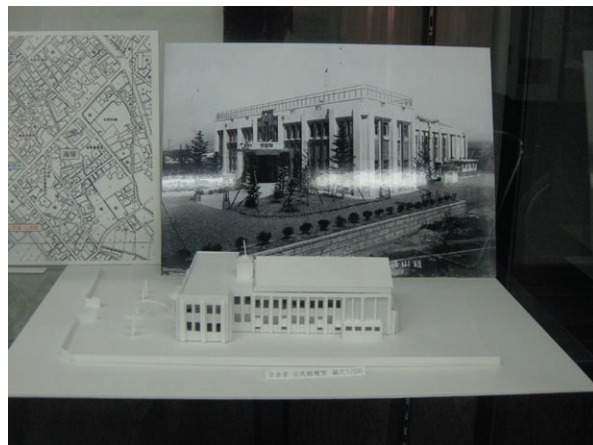
開館時間：午前10時～午後4時（入館は午後3時30分まで）

入館料：無料

休館日：毎火曜日、祝日

アクセス：JR阪和線「東貝塚駅」下車 徒歩約5分

南海本線「貝塚駅」下車 徒歩約20分



かいづか文化財だよりテンプス 45号

平成23年5月31日発行

貝塚市教育委員会

〒597-8585 貝塚市畠中1丁目17-1

Tel (072) 433-7126 Fax (072) 433-7107

Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp

印刷：(株)帯谷印刷所

※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。

年4回発行：各1,000部

印刷単価：37.80円

広告募集中

50mm × 80mm（最終ページ） 1枚

50mm × 175mm（2～7ページ） 6枚

詳しくは社会教育課文化財担当までお問合せください。

